

PCMCIA ファイルシステム互換性マトリックス およびファイルシステム情報

目次

[はじめに](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[PCMCIA ファイルシステム 互換性 マトリックス](#)

[PCMCIA ファイルシステムを操作する場合](#)

[クラス A ファイルシステム](#)

[出力例](#)

[クラス B ファイルシステム](#)

[クラス C ファイルシステム](#)

[関連情報](#)

[はじめに](#)

このドキュメントでは、PCMCIA ファイルシステム互換性マトリックス、使用可能な各種ファイルシステム、これらのファイルシステムの操作方法について説明します。

このリストは、さまざまなプラットフォーム間の PCMCIA フラッシュ カードのファイルシステム互換性を示したものです。異なるプラットフォームの別のルータあるいはスイッチ（ターゲット）に使用するソフトウェア イメージを、ルータまたはスイッチ（ソース）上にソフトウェアイメージをロードするときに、参照してください。

次の表は、各種のシスコ ハードウェア プラットフォームが属するファイルシステムを分類したものです。ファイルシステムの同一のクラスにリストされているプラットフォームは、同一のファイルシステム構造を持ちます。

注: PCMCIA フラッシュ カード上にある Cisco IOS(R) ソフトウェア ファイルからルータまたはスイッチをブートするためには、ターゲットプラットフォーム上で、フラッシュ カードをフォーマットしなければなりません。ソースプラットフォームでフォーマットされている PCMCIA カードを使用する場合によってははたらくかもしれないです; ただしファイルシステムが互換性がある、ターゲットルータのブートストラップバージョンがフォーマットされていたカードをサポートしないいくつかの状況があります。したがって、あらゆる状況でこのページに示したファイルシステムの互換性を保証する訳ではありません。

[はじめに](#)

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

前提条件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

PCMCIA ファイルシステム 互換性 マトリックス

ファイルシステム クラス「A」
<ul style="list-style-type: none">• LightStream 1010 および Catalyst 5000/5500 のための ATM スイッチ/プロセッサ• LightStream 1010 のための Multiservice Switch Route Processor• Catalyst 5000/5500 Route スイッチ Module (RSM)• Catalyst 8500 シリーズスイッチ ルートプロセッサ (SRP)• Cisco 6400 ユニバーサルアクセス コンセントレータ• Cisco 7000 Route スイッチ プロセッサ (RSP)• Cisco 7500 シリーズ Route スイッチ プロセッサ (RSP 2、RSP 4、8) RSP• Cisco 12000 シリーズ インターネット ルータ
ファイルシステム クラス「B」
<ul style="list-style-type: none">• Cisco 1000 シリーズ ルータ• Cisco 1600 シリーズ ルータ¹• Cisco 3600 シリーズ ルータ²
ファイルシステム クラス「C」
<ul style="list-style-type: none">• AS5800 Dial Shelf Controller• Catalyst 5000/5500 Supervisor III モジュール• Catalyst 6000/6500 Supervisor Engine I• Catalyst 6000/6500 Supervisor Engine II• Cisco 7000 Route プロセッサ• Cisco 7100 シリーズ ルータ• Cisco UBR7100 シリーズ ルータ• Cisco 7200 シリーズ Network Processing Engine• Cisco UBR7200 シリーズ ルータ• Cisco 7200VXR シリーズネットワークはエンジン 1

を保守します

- Cisco 7600 シリーズ インターネット Routersv
- Cisco 10000 シリーズ ルータ (ESR)
- Cisco UBR10000 シリーズ ルータ

フラッシュ・メモリが含まれている¹に 1600 シリーズ ルータ 単一 PC カードがあります。フラッシュするから動作する 1601-1604。ルータが動作しているとき PC カードを取り外せば、ルータは停止します。RAM からの 1601R-1605R 実行。PC カードを取り外す場合、ルータは次のブートアップの間に Cisco IOS ソフトウェアイメージをロードしません。1600 シリーズでは、別の配分になれば動作イメージ ファイルか他のどのファイルも削除できません。

²は 3600 従来クラス B ファイルシステムを使用しますが、Cisco IOS ソフトウェア バージョン 12.2(4)T の crashinfo ファイル サポートの付加と、3600 は個々のファイルを削除する機能を必要とします。その結果、Cisco IOS ソフトウェア バージョン 12.2T が付いている 3600 シリーズ ルータおよび以降はクラス B ファイルシステムからのコマンド、またクラス C ファイルシステムからのコマンドを利用します。Cisco IOS Software Release 12.2T との 3600 のクラス C ファイルシステム コマンドを起動するために、最初に完全にフラッシュ ファイルシステムからすべてのファイルを取除く **erase** コマンドを使用する必要があります。それからフラッシュするが空のとき、まとめる ログを作成するそれに対して **squeeze** コマンドを実行して下さい。この時点で、3600 フラッシュ システムはクラス C ファイルシステムのような **delete** および **squeeze** コマンドを使用します。

PCMCIA ファイルシステムを操作する場合

フラッシュ ディスク合致する、PC カード (以前の PCMCIA) 規格にシステムに AT Attachment (ATA) インターフェイスを示しフラッシュ メモリに基づいたデバイスです。このインターフェイスは ANSI ATA インターフェイス資料 X3T13.1153 D Rev. 9 仕様に準拠しています。

フラッシュ ディスクそれがハード ディスクをエミュレートするようにするそれは自動的に不良ブロックをマップし、自動ブロック削除を行いますコントローラ 回路を備えているのでフラッシュ ディスク リニア フラッシュ・メモリより適用範囲が広く。更に、フラッシュ ディスク非連続セクターを割り当てるために **squeeze** コマンドの必要性を省く機能を提供します (以前に リニア フラッシュ・メモリ カードと必要な)。

ルータの mainboard で直接インストールされるフラッシュ・メモリ モジュールとは違って複数の PCMCIA フラッシュする デバイスはメモリの 1 つの隣接するブロックに合体しません。従って大きいファイルを PCMCIA フラッシュするにロードするとき、そのようなファイルが複数のデバイスを渡って及ぶことができないことに注意することは重要です。

フラッシュ ディスク-システムに関係したファイルのシステム 構成 ファイル、Cisco IOS ソフトウェアイメージおよび他のタイプの記憶に...高められたフラッシュ ベース メモリ・スペースを-128 MB への 48 提供します。

フラッシュ・メモリ ATA ディスクおよびフラッシュ・メモリ カードは同じようなコマンドを使用します。プライマリ構文変更はその `disk0` です: または `disk1:` が使用され、フラッシュ・メモリ ATA ディスクを、間、`slot0:`参照します または `disk1:` フラッシュ・メモリ カードを参照します。通常、構文 `slot0:`使用して下さい フラッシュ・メモリ カード 20 MB よりより少し、および使用 `disk0` のため: 20 MB より大きいフラッシュ ディスクのため。 `slot0:`使用する 32 MB リニア PCMCIA フラッシュ カードがあることに留意して下さい。

どのフラッシュ カードがルータで使用され、**show version** コマンドを使用し、出力の一番下部分

を検知 するか見るため。

7200# **show version**

IOS (tm) 7200 Software (C7200-JS-M), Version 12.0(22), RELEASE SOFTWARE (fc1)
Copyright (c) 1986-2002 by cisco Systems, Inc.
Compiled Mon 01-Apr-02 19:44 by srani
Image text-base: 0x60008900, data-base: 0x610E0000

ROM: System Bootstrap, Version 12.1(20000914:181332) [bwhatley-npe200 102],
DEVELOPMENT SOFTWARE
BOOTFLASH: 7200 Software (C7200-BOOT-M), Version 12.0(5), RELEASE SOFTWARE (fc1)

cisco 7206 (NPE150) processor with 43008K/6144K bytes of memory.
R4700 processor, Implementation 33, Revision 1.0 (512KB Level 2 Cache)
Last reset from power-on
Bridging software.

X.25 software, Version 3.0.0.
SuperLAT software (copyright 1990 by Meridian Technology Corp).
TN3270 Emulation software.
1 FastEthernet/IEEE 802.3 interface(s)
125K bytes of non-volatile configuration memory.
1024K bytes of packet SRAM memory.

46976K bytes of ATA PCMCIA card at slot 0 (Sector size 512 bytes).

!-- This indicates an ATA PCMCIA flash disk 20480K bytes of Flash PCMCIA card at slot 1 (Sector size 128K).

!-- This indicates a Linear PCMCIA flash card 4096K bytes of Flash internal SIMM (Sector size 256K). Configuration register is 0x2102

show file system コマンドはまたルータによってサポートされるファイル システムを表示します

。

Router-3725# show file system

File Systems:

	Size(b)	Free(b)	Type	Flags	Prefixes
	-	-	opaque	rw	archive:
	-	-	opaque	rw	system:
	57336	51389	nvr	rw	nvr
	-	-	opaque	rw	null:
	-	-	network	rw	tftp:
	-	-	opaque	ro	xmodem:
	-	-	opaque	ro	ymodem:
*	63881216	22765568	disk	rw	flash:#
	31932416	31932416	disk	rw	slot0:#
	-	-	opaque	wo	syslog:
	-	-	network	rw	rcp:
	-	-	network	rw	pram:
	-	-	network	rw	ftp:
	-	-	network	rw	http:
	-	-	network	rw	scp:
	-	-	opaque	ro	tar:
	-	-	network	rw	https:
	-	-	opaque	ro	cns:

Router-7204# show file system

File Systems:

Size(b)	Free(b)	Type	Flags	Prefixes
-	-	opaque	rw	system:
-	-	opaque	rw	null:
-	-	network	rw	tftp:
129016	124443	nvrाम	rw	nvrाम:
-	-	disk	rw	disk0:
-	-	disk	rw	disk1:
* 20578304	2088580	flash	rw	slot0: flash:
-	-	flash	rw	slot1:
3407872	1307684	flash	rw	bootflash:
-	-	network	rw	rcp:
-	-	network	rw	pram:
-	-	network	rw	ftp:

```
Router-7206VXR#show file system
File Systems:
```

Size(b)	Free(b)	Type	Flags	Prefixes
-	-	opaque	rw	archive:
-	-	opaque	rw	system:
-	-	opaque	rw	null:
-	-	network	rw	tftp:
129016	126237	nvrाम	rw	nvrाम:
-	-	opaque	wo	syslog:
* 128135168	50855936	disk	rw	disk0:#
-	-	disk	rw	disk1:
-	-	flash	rw	slot0: flash:
-	-	flash	rw	slot1:
3407873	1	flash	rw	bootflash:
-	-	network	rw	rcp:
-	-	network	rw	pram:
-	-	network	rw	http:
-	-	network	rw	ftp:
-	-	opaque	ro	cns:

クラス A ファイルシステム

上記のファイルシステムがさまざまな Ciscoハードウェアプラットフォーム属する[ファイルシステム クラス A 表](#)は示しています。ファイルシステムの同一のクラスにリストされているプラットフォームは、同一のファイルシステム構造を持ちます。ファイルを削除すること、削除すること、および回復ために使用されるメソッドはファイルシステムのクラスによって決まります。クラス A ファイルシステムは次のファイル管理プログラム コマンドをサポートします:

- **削除**-削除されるように「マーク」ファイル、しかしファイルはまだフラッシュ・メモリの領域を占めます。これらのファイル以降を回復 **undelete** コマンドを使用して下さい。
- **まとめる**-特定のフラッシュメモリデバイスからファイルによってマークされる"deleted"か"error"すべてを永久削除にします。これらのファイルはもはや回復できません。まとめるオペレーションは PCMCIA カードのフラッシュ メモリ空間のほとんどを消し、書き換える必要がある場合限り数分奪取できます。
- **形式**-フラッシュ デバイスのファイルすべてを削除し、フラッシュ デバイスをプラットフォームによって使用されるために準備します。
- **確認して下さい**-再評価はフラッシュ・メモリのファイルのチェックサムを確認し。ファイルがフラッシュ デバイスに正しく書かれていたことを仮定します。それがデバイスに最初に書かれていたときにファイルが破損していたら、**verify** コマンドは決してエラーにフラグを付けません。**verify** コマンドはそれらにファイルでチェックサムを保存する機能があるので PCMCIA フラッシュ カードにだけ役立ちます。ATA フラッシュ ディスク チェックサムを保存する機能がありません従って **verify** コマンドは従来サポートされませんでした。ただし、

Cisco IOS ソフトウェア バージョン 12.2T および以降で、**verify** コマンドは MD5 オプションとアップデートされました従って比較することは現在可能性のあるリストされているものと [ソフトウェア ダウンロード領域](#) ([登録ユーザのみ](#)) に ATA フラッシュ ディスクで保存されるイメージの MD5 ハッシュを得、そのハッシュをです。

注: この資料に説明があるトラブルシューティング ツールを使用するために [登録ユーザ](#) であり、[ログオンする](#) 必要があります。

出力例

下記の出力例では Cisco IOS ソフトウェアファイル名前は使用されるプラットフォームの種類によって変わるかもしれません。

注: 下記のコマンドを使用する前にフラッシュ・メモリのファイルのリストを表示するのに **ディレクトリ{device:}** コマンドを使用して下さい。また、**提示{device:}** コマンドは PCMCIA フラッシュカードに利用でき、が削除されるとしてマークされるファイルを表示しますそれはまだ絞られていません。

- **削除**-削除されるように「マーク」ファイル、しかしファイルはまだフラッシュ・メモリの領域を占めます。フラッシュ・メモリ カードで **ディレクトリ{device:}** コマンドか **提示{device:}** コマンドのこをを使用によって十分な領域があることを確認して下さい。余地が十分な場合、十分な領域を作るためにいくつかのファイルを削除し、**絞って**下さい。

```
C7513#delete slot0:rsp-jsv-mz.112-26.bin
```

```
Delete filename [rsp-jsv-mz.112-26.bin]? y
```

```
Delete slot0:rsp-jsv-mz.112-26.bin? [confirm]y
```

- **リストアして下さい**-ファイルを回復クラス A フラッシュする ファイルシステムの" deleted "を示しました。クラス A フラッシュする ファイルシステムに関しては、ファイルを削除するとき、Cisco IOS ソフトウェアは削除されるようにファイルを単に示しますが、リニア PCMCIA フラッシュ カードのファイルを削除しません。このコマンドはファイルがリニア PCMCIA フラッシュ カードにある限り特定のフラッシュメモリデバイスの" deleted "ファイルを回復ことを可能にします。 **提示{device:}** コマンドの出力でリストされているようにインデックスによってファイルをリストアして下さい。

```
C7513#undelete 1 slot0:
```

この例では、1 のインデックスのファイルは slot0 からリストアされます。インデックス番号は次を見られるように **提示{device:}** コマンドの出力から得られました。最初のフィールドは (-#) インデックス フィールドです:

```
C7513#show slot0:
```

```
-#- ED --type-- --crc--- -seek-- nlen -length- -----date/time----- name
```

```
1 .D image 9CAA2A55 83C50C 19 8504460 Jan 13 2000 20:03:02 rsp-pv-mz.120-10.S5
```

```
7879412 bytes available (8504588 bytes used)
```

- **まとめる**-リニア PCMCIA フラッシュ カードのクラス A フラッシュする ファイルシステムの圧縮によって永久にフラッシュ ファイルを削除するため。このコマンドは ATA PCMCIA フラッシュ ディスクで使用されません。フラッシュ・メモリが完全なとき、ファイルによってマークされる" deleted "によって使用される領域が再利用することができるようにファイルを再配置する必要がありますかもしれません。 **squeeze** コマンドを発行するとき、ルータはフラッ

シユ・メモリの初めにすべての有効なファイルをコピーし、「マークされるすべてのファイルを削除されてまたは"error"削除します。この時点で、"deleted"ファイルを回復、再利用されたフラッシュメモリ空間に書くことができます。注: **squeeze** コマンドは Cisco IOS ソフトウェア リリース 11.1 以降利用できます。Cisco IOS ソフトウェア リリースが 11.1 より早い場合、全体のフラッシュするをルータに先にあった **format** コマンドを使用して削除し、次にイメージをコピーする必要があります。

```
C7513#squeeze slot0:
```

```
All deleted files will be removed. Continue? [confirm]
```

```
Squeeze operation may take a while. Continue? [confirm]
```

```
Squeezing...
```

```
Squeeze of slot0 complete
```

- **形式**-クラス A フラッシュする ファイルシステムをフォーマットするため。場合によっては、新しい PCMCIA フラッシュ・メモリ カードを挿入し、それにイメージかバックアップ コンフィギュレーション ファイルをロードする必要があるかもしれません。新しいフラッシュ・メモリ カードを使用できる前にそれをフォーマットして下さい。プラットフォームが リニア PCMCIA フラッシュ カードから起動できることを確かめるために疑わしいプラットフォームでそれをフォーマットする必要があります; ただし、ATA フラッシュ ディスクから起動する機能は頻繁にプラットフォームに依存した時です。

```
C7513#format slot0:
```

```
Format operation may take a while. Continue? [confirm]
```

```
Format operation will destroy all data in "slot0:". Continue? [confirm]
```

```
Formatting sector 160.....
```

```
Format of slot0: complete
```

クラス B ファイルシステム

上記のファイルシステムがさまざまな Cisco ハードウェア プラットフォーム 属する [ファイルシステム クラス B](#) 表は示しています。ファイルシステムの同一のクラスにリストされているプラットフォームは、同一のファイルシステム構造を持ちます。ファイルを削除すること、配分すること、削除すること、および回復のために使用されるメソッドはファイルシステムのクラスによって決まります。クラス B ファイルシステムは次のファイル管理プログラム コマンドをサポートします:

- **削除**-削除されるように「マーク」ファイル、しかしファイルはまだフラッシュ・メモリの領域を占めます。
- **消去**-フラッシュ デバイスのファイルすべてを削除します。
- **パーティション**-フラッシュ・メモリをクラス B ファイルシステム プラットフォームのパーティションに分けるため。配分を取消し、1つの配分にフラッシュ・メモリを復元するのにこのコマンドの **No 形式** を使用して下さい。

出力例では、Cisco IOS ソフトウェアファイル名前は使用されるプラットフォームの種類によって変わるかもしれません。

注: 下記のコマンドを使用する前にフラッシュ・メモリのファイルのリストを表示するのに **ディレ**

クトリ{device;} コマンドが 提示{device;} コマンドを使用して下さい。

- 削除されるように「マーク」ファイルを削除して下さい、しかしファイルはまだフラッシュ・メモリの領域を占めます。フラッシュ・メモリカードでディレクトリ{device;} コマンドの
ことを使用によって十分な領域があることを確認して下さい。余度が十分ない場合、領域を
回復ためにフラッシュするを削除して下さい。削除したファイルを回復唯一の方法はフラッ
シュするを削除し、トリビアル ファイル転送プロトコル (TFTP) またはファイル転送プロ
トコル (FTP) サーバからファイルを再度ダウンロードすることです。

```
3640#delete slot1:c3640-i-mz.113-11c.bin
```

```
Delete filename [c3640-i-mz.113-11c.bin]? y
```

```
Delete slot1:c3640-i-mz.113-11c.bin? [confirm]y
```

注: クラス B フラッシュする ファイルシステムのスペースを delete コマンドを使用してファ
イルを削除した後再利用するために、erase コマンドを使用して下さい。注記: erase コマ
ンドはフラッシュ ファイルシステムのファイルすべてを削除します。

- 消去-このコマンドはフラッシュ ファイルシステムのファイルすべてを削除します; ファイル
システムのファイルのどれも回復できません。次の例は 3640 ルータの erase コマンドを示
したものです。erase コマンドが slot1 のファイルを削除するのに使用されています。

```
3640#erase slot1:
```

```
Erasing the slot1 filesystem will remove all files! Continue? [confirm]y
```

```
Erasing device... eeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeeee ...erased
```

```
Erase of slot1 complete
```

- 配分-フラッシュ・メモリをクラス B ファイルシステム プラットフォームの配分に分けるた
めに、partition global configuration コマンドを使用して下さい。配分を取消し、1 つの配分
にフラッシュ・メモリを復元するのにこのコマンドの No 形式を使用して下さい。注
: partition コマンドを使用する前に、特定のフラッシュ・メモリを消す必要があります。

Cisco 1600 シリーズのためおよび Cisco 3600 シリーズ:

パーティション フラッシュする ファイルシステム: [数のパーティション] [パーティション サイズ]

no partition flash-filesystem:

他のすべてのクラス B プラットフォーム:

パーティション フラッシュ パーティション [size1 size2]

no partition flash

次の例は 3 つのパーティションに slot0 のフラッシュ・メモリカードを分けたものです: Cisco
3600 の 2 8 MB および 1 4 MB:

```
3640# configure terminal
```

```
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```



```
3640(config)# partition slot0: 3 8 8 4
```

配分をチェックする **show slot0** コマンドを使用して下さい。そこにその下で例からです3つのパーティション見ることができません: 8 MB との 2 および 4 MB との 1。パーティションが作成された後最初のパーティションに Cisco IOSソフトウェアイメージがロードされます。

```
3640#show slot0:
```

```
PCMCIA Slot0 flash directory, partition 1:
```

```
File Length Name/status
```

```
1 2779832 c3640-i-mz.113-11c.bin
```

```
[2779896 bytes used, 5608712 available, 8388608 total]
```

```
8192K bytes of processor board PCMCIA Slot0 flash (Read/Write)
```

```
PCMCIA Slot0 flash directory, partition 2:
```

```
No files in PCMCIA Slot0 flash
```

```
[0 bytes used, 8388608 available, 8388608 total]
```

```
8192K bytes of processor board PCMCIA Slot0 flash (Read/Write)
```

```
PCMCIA Slot0 flash directory, partition 3:
```

```
No files in PCMCIA Slot0 flash
```

```
[0 bytes used, 3932160 available, 3932160 total]
```

```
4096K bytes of processor board PCMCIA Slot0 flash (Read/Write)
```

配分を取除くために、**no partition** コマンドを使用して下さい:

```
3640# configure terminal
```

```
3640(config)#no partition flash 3 8 8 4
```

```
3640(config)#
```

[クラス C ファイルシステム](#)

上記のファイルシステムがさまざまな Ciscoハードウェアプラットフォーム属する[ファイルシステム クラス C](#)表は示しています。ファイルシステムの同一のクラスにリストされているプラットフォームは、同一のファイルシステム構造を持ちます。ファイルを削除すること、削除すること、および回復のために使用されるメソッドはファイルシステムのクラスによって決まります。クラス C ファイルシステムは次のファイル管理プログラム コマンドをサポートします:

- **削除**-削除されるように「マーク」ファイル、しかしファイルはまだフラッシュ・メモリの領域を占めます。これらのファイル以降を回復 [undelete コマンド](#)を使用して下さい。
- **圧搾**は特定のフラッシュメモリデバイスからファイルによってマークされる"deleted"か"error"すべてを永久削除にします。これらのファイルはもはや回復できません。まとめるオ

ペレーションは PCMCIA カードのフラッシュ メモリ空間のほとんどを消し、書き換える必要がある場合限り数分奪取できます。

- 形式-フラッシュ デバイスのファイルすべてを削除します。
- `mkdir` -クラス C フラッシュする ファイルシステムの新しいディレクトリを作成するため。
- `rmdir` -クラス C フラッシュする ファイルシステムの既存のディレクトリを取除くため。
- 名前を変更して下さい-クラス C フラッシュする ファイルシステムのファイルの名前を変更するため。

出力例

下記の出力例では Cisco IOS ソフトウェアファイル名前は使用されるプラットフォームの種類によって変わるかもしれません。

注: 下記のコマンドを使用する前にディレクトリ `{device:}` コマンドを使用するか、またはフラッシュ ファイルシステムのファイルのリストを表示するために `{device:}` コマンドを示して下さい。

- 削除されるように「マーク」ファイルを削除して下さい、しかしファイルはまだフラッシュ・メモリの領域を占めます。フラッシュ・メモリ カードでディレクトリ `{device:}` コマンドの使用によって十分な領域があることを確認して下さい。余地が十分ない場合、十分な領域を作るためにいくつかのファイルを削除し、絞って下さい。

```
7206#delete slot1:
```

```
Delete filename []? c7200-js-mz.120-22.bin
```

```
Delete slot1:c7200-js-mz.120-22.bin? [confirm]
```

上記のファイルを削除した後 `squeeze` コマンドを使用してファイルシステムを絞ることができます。

```
7206#squeeze slot1:
```

```
All deleted files will be removed. Continue? [confirm]
```

```
Squeeze operation may take a while. Continue? [confirm]
```

```
Squeeze of slot1 complete
```

注: `squeeze` コマンドは Cisco IOS ソフトウェア リリース 11.1 以降利用できます。Cisco IOS ソフトウェア リリースが 11.1 より早い場合、全体のフラッシュするをルータに前にあった `format` コマンドを使用して削除し、次にイメージをコピーする必要があります。

- 形式-クラス C フラッシュする ファイルシステムをフォーマットするため。場合によっては、新しい PCMCIA フラッシュ・メモリ カードを挿入し、それにイメージがバックアップコンフィギュレーション ファイルをロードする必要があるかもしれません。新しいフラッシュ・メモリ カードを使用できる前にそれをフォーマットして下さい。例 1: フラッシュ ディスクの使用

```
7206#format disk0:
```

```
Format operation may take a while. Continue? [confirm]
```

```
Format operation will destroy all data in "disk0:". Continue? [confirm]
```

```
Format: Drive communication & 1st Sector Write OK...
```

```
Writing Monlib sectors.....
```

.....
Monlib write complete

Format: All system sectors written. OK...

Format: Total sectors in formatted partition: 93792

Format: Total bytes in formatted partition: 48021504

Format: Operation completed successfully.

Format of disk0: complete

7206#

例 2: リニア フラッシュ カードの使用

7206#**format slot1:**

Format operation may take a while. Continue? [confirm]y

Format operation will destroy all data in "slot1:". Continue? [confirm]y

Enter volume ID (up to 64 chars)[default slot1]:

Formatting sector 1

Format of slot1 complete

7206#

関連情報

- [Cisco IOS ファイル システムの使用](#)
- [Cisco IOS ソフトウェア リリースの選択方法](#)
- [テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems](#)